

| 具体的な能力とそれを達成するための科目との対応及び達成度の評価方法・評価基準 (5段階評価の3を合格基準とする) (計画書は報告書・論文にまとめてよい)(塗りつぶしは主体的に開与) | | | | | | | | | | | | | |
|--|------------------------|--|---|--|---|---|-------------------------------------|---|--|---|---|--|--|
| 学年 学期 | 授業 科目 | 計画段階 | | | | 実行段階 | | | | 総括段階 | | | |
| | | 調査・検索能力 | 企画・創案能力 | 問題抽出・検討能力 | 設計・計画能力 | 知識・技術取得能力 | 協調・管理統率能力 | 実践能力 | 継続的改善能力 | 報告書・プレゼン能力 | 評価能力 | | |
| | | 特許検索・論文調査・社会ニーズの市場調査等ができ、社会の要求するテーマあるいはレベルを設定することができる | 調査・検索等に基づき、創造性溢れるテーマや企画などを提案できる | 課題や構想を実現する過程で発生する問題(製作手法、製作材料、耐久性、経済性、安全性、倫理性、環境問題等)を予想・抽出し、実現可能なものかどうかを検討・判断できる | 得られた知識・技術に創造性を加え、課題や構想を実現するための実施計画を具体的に、計画書、プログラム、設計図などで表現できる | 既存の知識・技術を駆使して解決を試み、解決できない場合には、新たに必要となる知識・技術の取得あるいは未知の知識・技術を整理・統合できる | スタッフやユーザ等とのコミュニケーションを通じて、協調・管理統率できる | 課題や構想を実施計画に従って、継続的に着実に実行できる | 継続して点検を欠かさず、計画を尊重しつつ創造性を発揮し、スパイラルアップを目指すことができる | 完成した作品を報告書にまとめる、プレゼンテーションができる | 完成した作品を自己評価し、さらに他の作品等を正当に評価できる | | |
| 1 | 電気 電子 設計 製図 | | | | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | | | | | 計画書、作品及び報告書で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 報告書・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書及び発表会での学生による質疑で評価する。評価基準は、他の作品の論理的に整合性のある評価及び質疑(一回以上) | |
| 2 | 電気 情報 工学 実験 | | | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、ハード上の問題点まで言及していること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | | | | | 計画書、作品及び報告書で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 報告書・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書及び発表会での学生による質疑で評価する。評価基準は、他の作品の論理的に整合性のある評価及び質疑(一回以上) | |
| 3 | 電気 情報 工学 実験 | | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、過去の作品にない、新鮮味や創造性が感じられること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、ハード上の問題点、価格、自己の能力等まで言及していること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | | | | | 計画書、作品及び報告書で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 発表会で評価する。複数回の改善が確認できること。 | 報告書・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書及び発表会での学生による質疑で評価する。評価基準は、他の作品の論理的に整合性のある評価及び質疑(一回以上) |
| 4前 | 工学 基礎 研究 | テーマ設定における討論等で評価する。評価基準は中学生・保護者・中学校教員への公開に耐えるものであること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、従来のものと異なり、新鮮味や創造性が感じられること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、限られた時間、予算、自己の能力等の制約のもと、完成にいたる道筋が明確であること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、ソフト、ハードおよびメカニズムに関する設計がなされており、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | 報告書で評価する。新たな知識・技術の獲得が確認できること。 | | 実践状況で評価する。共同作業の成果が確認できること。 | | 計画書、作品及び報告書で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 実践状況で評価する。複数回の改善が確認できること。 | 報告書・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書・論文で評価する。評価基準は他の作品・論文との比較についての論理的整合性のある評価を確認できること。 |
| 4後 | 工学 基礎 研究 | テーマ設定において、特許検索、論文調査、あるいはインターネット検索等を実施させ、その報告書等で評価する。評価基準は、報告書等の内容に間違いがなく、最新のものであること。 | | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、限られた時間、予算、自己の能力等の制約のもと、完成にいたる道筋が明確であること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | 報告書で評価する。新たな知識・技術の獲得が確認できること。 | | | | 計画書、作品及び報告書で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 実践状況で評価する。複数回の改善が確認できること。 | 報告書・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書・論文で評価する。評価基準は他の作品・論文との比較についての論理的整合性のある評価を確認できること。 |
| 4 | 校外 実習 | | | 発表会の内容で評価する。実務上の問題点等について言及していること。 | | | | | | 発表会の内容および質疑応答で評価する。企業とのコミュニケーションが確認できること。 | 企業の評価、発表会の内容及び質疑応答で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書・論文で評価する。評価基準は他の作品・論文との比較についての論理的整合性のある評価を確認できること。 |
| 5 | 電気 電子 工学 実験 | テーマ設定における討論等で評価する。評価基準は中学生・保護者・中学校教員への公開に耐えるものであること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、従来のものと異なり、新鮮味や創造性が感じられること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、限られた時間、予算、自己の能力等の制約のもと、完成にいたる道筋が明確であること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、ソフト、ハードおよびメカニズムに関する設計がなされており、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | 作品で評価する。新たな知識・技術の獲得が確認できること。 | | 計画書と報告書で評価する。評価基準は分担が明確であり、協同して完成させたことが確認できること。 | | 計画書、作品及び報告書で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 実践状況で評価する。複数回の改善が確認できること。 | 報告書・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書・論文で評価する。評価基準は他の作品・論文との比較についての論理的整合性のある評価を確認できること。 |
| 5 | 卒業 研究 | テーマ設定において、特許検索、論文調査、あるいはインターネット検索等を実施させ、その報告書等で評価する。評価基準は、報告書等の内容に間違いがなく、最新のものであること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、従来のものと異なり、新鮮味や創造性が感じられること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、限られた時間、予算、自己の能力等の制約のもと、完成にいたる道筋が明確であること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | 論文・発表会で評価する。新たな知識・技術の獲得が確認できること。 | | | | 論文及び発表会で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 論文及び実践状況で評価する。複数回の改善が確認できること。 | 論文・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書・論文で評価する。評価基準は他の作品・論文との比較についての論理的整合性のある評価を確認できること。 |
| 専1 | 電子 システム 工学 実験 | | | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、限られた時間、予算、自己の能力等の制約のもと、完成にいたる道筋が明確であること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、ソフト、ハードおよびメカニズムに関する設計がなされており、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | 作品で評価する。新たな知識・技術の獲得が確認できること。 | | 計画書と報告書で評価する。評価基準は分担が明確であり、協同して完成させたことが確認できること。 | | 計画書、作品及び報告書で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 実践状況で評価する。複数回の改善が確認できること。 | 報告書・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書・論文で評価する。評価基準は他の作品・論文との比較についての論理的整合性のある評価を確認できること。 |
| 専1 | 特別 実習 | | | 発表会及び予稿の内容で評価する。実務上の問題点等について言及していること。 | | | | | | 企業の評価、発表会の内容および質疑応答で評価する。企業とのコミュニケーションが確認できること。 | 企業の評価、発表会の内容及び質疑応答で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 報告書・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書・論文で評価する。評価基準は他の作品・論文との比較についての論理的整合性のある評価を確認できること。 |
| 専2 | 創造 工学 実習 | テーマ設定において、特許検索、論文調査、あるいはインターネット検索等を実施させ、その報告書等で評価する。評価基準は、報告書等の内容に間違いがなく、最新のものであること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、従来のものと異なり、新鮮味や創造性が感じられること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、限られた時間、予算、自己の能力等の制約のもと、完成にいたる道筋が明確であること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、ソフト、ハードおよびメカニズムに関する設計がなされており、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | 作品で評価する。新たな知識・技術の獲得が確認できること。 | | 計画書と報告書で評価する。評価基準は分担が明確であり、協同して完成させたことが確認できること。 | | 計画書、作品及び報告書で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 実践状況で評価する。複数回の改善が確認できること。 | 報告書・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書・論文で評価する。評価基準は他の作品・論文との比較についての論理的整合性のある評価を確認できること。 |
| 専 | 特別 研究 | テーマ設定において、特許検索、論文調査、あるいはインターネット検索等を実施させ、その報告書等で評価する。評価基準は、報告書等の内容に間違いがなく、最新のものであること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、従来のものと異なり、新鮮味や創造性が感じられること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、限られた時間、予算、自己の能力等の制約のもと、完成にいたる道筋が明確であること。 | 計画書を提出させ評価する。評価基準は、完成にいたる道筋が具体的で実現が可能なものであること。 | 論文・発表会で評価する。新たな知識・技術の獲得が確認できること。 | | | | 論文及び発表会で評価する。継続して努力した形跡が確認できること。 | 論文及び実践状況で評価する。複数回の改善が確認できること。 | 論文・プレゼンで評価する。評価基準は報告書・プレゼンの体裁等が守られ、論理的な整合性があること。 | 報告書・論文で評価する。評価基準は他の作品・論文との比較についての論理的整合性のある評価を確認できること。 |